あなたと博物館

松本市立博物館ニュース　No.184　2013.1.1

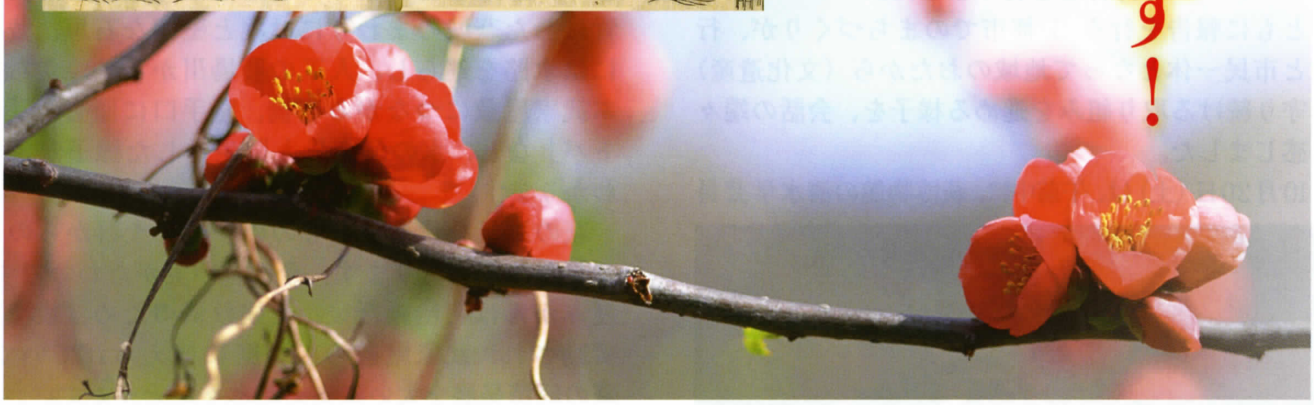
明けましておめでとうございます！

本年もよろしくお願いいたします。

平成25年（2013）は、藩校崇教館開校220周年、開智学校開学140周年の節目の年です。松本市立博物館が誕生して107年目、今年も学都松本をめざして少しずつ歩んでいきます。

左：松本記念館　中央奥：開智学校

筑摩縣開智學校之圖（『信飛新聞』第7號より）



もくじ

博物館ノートから ◇ 萩まちじゅう博物館シンポジウム
《人と地域資源をいかすまちづくり》に参加して …… 2-3
博物館TOPICS ◇ 松本市博物館協議会が発足しました！ …… 4
ガイドコーナーはんてんぼく …… 4

萩まちじゅう博物館シンポジウム
《人と地域資源をいかすまちづくり》に参加して

「萩！行ってみたい！」ほぼ全員がこう答えるほど、日本の心の故郷といわれる「萩」はあこがれの地です。しかし、私にとって、これまで「萩」は遠い存在でした。

10 月 19 日から 21 日までの「萩行き」という貴重な機会をいただいて、とまどったけれど、市民学芸員養成講座や松本まるごと博物館（以下松本まる博）友の会で学んだことへのささやかな実践とお返しのつもりで行かせていただくことになりました。実際の萩をみるまでは、私の知識などわずかなものでした。明治維新の立役者となり、その後の日本を築いてきた人々（吉田松陰、高杉晋作、久坂玄瑞、桂小五郎など）を数多く輩出した地であること、近代化の名のもとに大切な遺産（おたから）が失われてきた松本とちがって、萩の地形的事情でむやみな近代化は進まず、大切なものが残されてきたこと、現在人口 6 万の萩市の中で行政のリーダーシップもさることながら、市民協働の萩まちじゅう博物館（以下萩まち博）の推進が、10 年目を迎える中で、全市あげての取り組みになっていることなど、深く知れば知るほど、萩のすごさ、すばらしさを認識することになりました。

10 月 19 日（金）は、不安を抱きつつ、萩へ向かいました。新山口駅で、萩まち博の皆様に出迎えていただきました。萩市内に入ると、建物や広告物の高さ、色調が厳しく制限され、町全体に落ち着いたたたずまいの雰囲気がただよっていました。

夕食時、萩市・野村市長をはじめ担当課の方々と一緒に、福岡県太宰府市、愛媛県内子町、松本市のメンバーで打合せを行いました。

ともに報告を行う 3 都市でのまちづくりが、行政と市民一体となって地域のおたから（文化遺産）を守り続ける取り組みを進める様子を、会話の端々に感じました。

10月20日（土）は、午前中に、萩博物館の清水学芸員に萩の町を案内していただき、シンポジウムの緊張はどこへやら、「萩」を体感するステキな時間をすごさせていただきました。

萩の町を視察する様子

まず、登った田床山（萩の南東、標高 373m）からは萩市内が一目瞭然。自然観察の手法で学んだ「森を見て木を見る」のとおり、まず大きな枠でとらえる世界でした。南からくる阿武川の流れは西に橋本川、東に松本川に分かれ、その先は日本海へ。まさしく萩城下町は三角州の中です。川の三方には山があり、城を築くのにふさわしい四神相応の地となっています。萩藩（長州藩 36 万石）が城を築く時、ここに登って理想的な地形を発見したということがよくわかる山でした。

萩市遠景

萩城下町は、160 年前（江戸時代）の城下町絵図そのままの町割りや道路が残り、今でも同じ場所に同じ表札がいくつもあるとのことでした。

三角州の地形は、水との戦いでもあったと聞きます。湿地を埋め立ててまちをつくり、指月山（しづきやま）を背にした萩城のまわりには堀と堅固な石垣、城下には水路を巡らし、人工の藍場川からは、立ち並ぶ武家屋敷につながる石橋、勝手口に面した「ハトバ」など、水の便を最大限生かした様子がよくわかります。

萩の風景を代表するものの一つに土塀からのぞく夏みかんがあります。今は青い実がたわわです。夏みかんは明治維新後、士族救済のため、栽培が奨励され、武家屋敷の広い庭に植えられていて、萩の経済発展を大いに支えた木々だそうです。

最盛期には、夏みかんの木が 3 本あれば、子どもの教育費が全て賄えたということでした。

国の重要伝統的建造物保存地区（以下 伝建保存）の堀内地区（三の丸跡、重臣たちの屋敷が並ぶ）には、さらに長く白い漆喰の土塀や江戸時代からの礎石、人が住む家も住んでいない家も、どこまでも

整然と美しく、見事な町並みが続いていました。そして、いよいよシンポジウム会場へ。

シンポジウム前の昼食時、前日にエチオピア支援から帰国したばかりの講師・コーディネーターの北海道大学観光学高等研究センターの西山徳明教授にお会いしました。

西山先生は萩や内子の伝建保存や、太宰府歴史的風致維持計画にも関わりを持ち、海外での観光開発など地域活性化のために幅広い活動を展開されています。

最終打合せのあと、西山先生に「エコミュージアムの現状」をおたずねしました。フランスのその後、日本の今について先生は次のようにお話をしてくださいました。

「エコミュージアムについて、フランスでは失敗だったと言う人（エコミュージアムに詳しい人でも）もあるけど、そんなことはありません。要するに地域の人々が生き生きとしてくれば、人が来る来ないより、ずっとそちらのほうが大切なこと。とりわけ日本をみてください。その精神が息づいて、活動が生き生きしているところが多いのです。

地域が元気に、人々の生きがいにもつながる（地域活性化）ことこそが大切だということでしょう」印象的で嬉しいお言葉でした。

建築学・都市計画学・ツーリズム・文化的景観など、幅広い分野に関わりを持たれる西山先生の講演は、これまで携わられた文化審議会・世界遺産・萩、内子などの伝建保存、海外への観光開発協力（ヨルダン、エチオピアなど）と世界中での精力的な活動が紹介されました。

松本まる博の推進にもぜひお力添えがほしい方だと思いました。

シンポジウムでは、まず松本市から窪田博物館長による松本まる博の誕生や市立博物館の歴史、12 年目の進捗状況などを、私は自然観察の活動や市民学芸員、友の会の関わりを予定時間で伝えました。続く太宰府市からは、およそ 1300 年前に始まる「太宰府」の文化遺産からはじまるまちづくりと題して、歴史的風致向上活動を進め、人々の想いの数だけある文化遺産を掘りおこし、未来へつなげるための取り組みの報告がありました。35 年前は過疎と高齢化に悩む町だった内子町からは、かつて和紙や木蝋の生産地として栄えた町並みを保存し（伝建保存地区）、特産品を育てグリーンツーリズムに取り組む、町ぐるみの活動が報告されました。萩市の報告は、日本の心の故郷・萩（案内していただいたとおりの）の様子やエコミュージアムをベースにした、萩まち博の行政と市民協働の取り組みが紹介されていました。

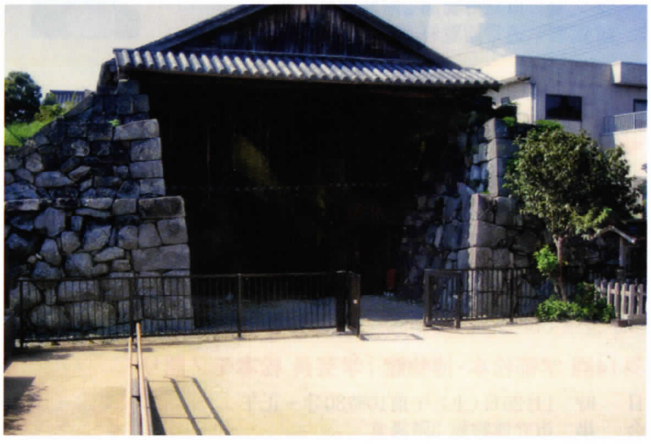
松本まる博 12 年目の松本市にとって、良いヒントが沢山あるシンポジウムでした。

10 月 21 日（日）は、伝建保存地区の堀内と浜崎の一部を市民ガイドの方々に案内していただきました。

萩博物館は萩まち博の中核施設（コア）として、堀内地区大野毛利家屋敷跡に、その威容を誇っています。萩の町並みにとけ込んで美しく、萩をより深く知るための糸口がここにあります。管理運営は市民（NPO 法人）と行政の協働で行われ、市民目線のアイデアもいっぱいです。

浜崎地区には、萩藩お船倉や、海産物問屋、船具店など江戸時代の建物が、数多く残っています。やはり、地区の人々が一体となって、町並みを守っています。

滞在中、萩のまちを案内していただいて、萩が日本の心の故郷といわれる所以を体感しました。落ち着いていて美しい萩にずっと住んでみたい気持ちになりました。



萩藩お船倉

松本にも、北アルプスをはじめ豊かな自然環境に恵まれて、郷土の誇る歴史・文化・産業の遺産など守り伝えるべきものがまだまだ沢山あります。

失ってからでは遅いのです。私たちも、市民学芸員や松本まる博友の会の学びを発展させて、市民目線の「おたから」発見や、松本まる博の活動推進に努めたいと思います。

3 日間、貴重な機会を与えていただいて、ありがとうございました。感謝申し上げます。

（自然観察の会ひこばえ代表・市民学芸員／村上さよ子）

松本市博物館協議会が発足しました！

昨年 10 月 26 日（金）、第 1 回となる松本市博物館協議会が開催されました。協議会とは、松本市立博物館の運営に関して、館長の諮問に応じて調査審議し、意見を述べる機関です。

当日、吉江厚教育長から皆さんに委嘱状を交付し、委員長に笹本正治信州大学副学長、副委員長に塩原幸子楽知ん見遊会会員が互選されました。協議会では、博物館と地域文化、学都松本と博物館の使命などについて、熱心な意見が出されました。12 月 12 日（水）には委員による施設視察が行われました。

委員委嘱状の交付

ガイドコーナー はんてんぼく

新春が催し物をつれてきました

松本市立博物館から　特別展「ダルマの人 百瀬正堂 —第3代松本市長のまなざし—」

第3代松本市長を務めた、百瀬渡のコレクションや関係資料を紹介します。松本市政において大きな足跡を残した百瀬渡は、雅号を正堂といい優れたダルマ絵の描き手としても有名でした。今回の特別展では、松本市長の側面と、正堂という作家としての側面の両方から、百瀬渡の功績や人となりに迫ります。

会　期　2月9日（土）～3月24日（日）
会　場　市立博物館 2階特別展示室
観覧料　通常観覧料

考古博物館から　移動博物館 速報展「発掘された松本2012」

2012年中に市内で行われた発掘調査の成果を、出土品の展示と写真で紹介します。

会　期　2月9日（土）～2月24日（日）
会　場　松本市時計博物館 3階展示室
観覧料　大人300円、小人150円

関連事業　発掘された松本2012 ～松本市遺跡報告会～

日　時　2月16日（土）午後1時～4時
会　場　松本市時計博物館4階本町ホール
参加料　無料
問合せ　文化財課埋蔵文化財担当（Tel.85-7064）

松本市立博物館から　☎0263-32-0133

年中行事シリーズ「まゆ玉サービス」

博物館ボランティア・エムの会の協力によるまゆ玉の無料配布を行います。ぜひお越しください。

日　時　1月14日（月・祝）午前9時30分～なくなり次第終了
会　場　市立博物館ロビー

第14回 学都松本・博物館「学芸員 松本モノ語り」

日　時　1月26日（土）午前10時30分～正午
会　場　市立博物館 2階講堂
テーマ　窪田空穂—人と文学—
語り手　山腰絵梨菜（窪田空穂記念館学芸員）
参加料　200円

時計博物館から　☎0263-36-0969

平成25年 松本あめ市歴史展示 企画展「子ども達の見たあめ市」

会　期　1月5日（土）～2月3日（日）
会　場　時計博物館3階 企画展示室
観覧料　企画展観覧料は無料（ただし常設展は有料）
問合せ　時計博物館へ

窪田空穂記念館から　☎0263-48-3440

空穂生家百人一首教室

日　時　1月12日（土）午前10時～正午
会　場　窪田空穂生家
講　師　寺沢尚武氏
対　象　小中学生とその家族（園児も可）
定　員　30名
参加料　無料
申込み　当日まで

重文馬場家住宅から　☎0263-85-5070

内田のおんべ祭り見学会

松本市重要無形民俗文化財に指定されている「内田のおんべ祭り」を見学します。

日　時　1月14日（月・祝）正午～午後4時
定　員　10名
参加料　200円
問合せ　馬場家住宅へ

あとがき

平成25年の干支は巳です。考古博物館では1月4日（金）からヘビが描かれた縄文土器を展示します。縁起物の資料ですので、この機会にぜひご覧ください。平成24年は多くの皆様に多大なるお力添えをいただき、職員一同、たいへん感謝しております。新年もまるごと博物館をよろしくお願いします。　（A. K）

あなたと博物館 No.184
発行年月日／平成25年1月1日　編集・発行／松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133 URL:http://www.matsu-haku.com
e-mail : mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp　印刷 川越印刷株式会社